



# 大すきいっぱい西北の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和6年4月8日  
長崎市立西北小学校  
文責：校長 江原芳樹  
R6 第1号

今年は桜の花がゆっくと春を迎え、新年度と一緒に迎えてくれました。

令和6年度がはじまりました。10日(水)の入学式に74名の新入生を迎え入れ、全校児童511人でのスタートです。

学校教育目標は引き続き「自ら考え、共に生き、自分づくりに取り組む西北の子」です。より良い自分づくりに取り組むことのできる子どもの育成に、全職員で取り組んでいきます。今年度も保護者の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

## 令和6年度 西北小学校職員紹介

4月、11名の新しい先生方を迎えました。令和6年度の担任等は、次のようになっています。2学級だった昨年度の5年生が、6年生では3学級になり、学級数が昨年度より多くなりました。全校児童数は少し減りましたが、学級数が増え、新しい西北小学校が始まります。どうぞ、よろしくお願い致します。〈☆は、今年度の転入職員です。〉

校長	江原 芳樹	特別支援そよ風1組	☆増山 和彦
教頭	竹村 尚史	特別支援そよ風2組	丸木 美恵子
教務主任(専科)	猪股 敦志	特別支援そよ風3組	釜谷 智恵香
1年1組	松本 基子	特別支援そよ風4組	伊藤 千尋
2組	☆藤岡 小百合	特別支援そよ風5組	☆山口 寛志
3組	☆小畑 和美	特別支援そよ風6組	江口 哲己
2年1組	坂本 裕子	専科・少人数	長谷 繁昭
2組	☆鶴見 和泉	専科	玉野 優子
3組	野田 沢子	専科	☆大久保 利彦
3年1組	松野 絵理	初任研拠点校指導	☆小林 和正
2組	大谷 健一	養護教諭	朝長 久美子
3組	里 綾	栄養教諭	野下 広美
4年1組	山崎 未優	事務主幹	山口 哲浩
2組	常岡 航史	庁務員	清水 兼二
3組	中里 美穂	特支教育支援員	角町 和美
5年1組	梅枝 理香	特支教育支援員	久保 とき子
2組	☆廣瀬 智大	特支教育支援員	前田 拓実
3組	☆植木 浩子	特支教育支援員	☆江口 温美
6年1組	☆馬場 務	図書司書	和泉 敦子
2組	葉山 愛友	外国語活動指導	アリタ コティ 姓-リタ タト-
3組	☆福田 雄一郎	外国語活動指導	大松 桂子
		スクールカウンセラー	峯 有市

## 今年度の重点項目

新年度を迎えるにあたり、全職員で次の「学校は誰のためにあるか」を確認しました。

学校は誰のためにあるのか。  
それは、伸びたいと強く願う子どものためにある。  
それは、伸びてほしいと強く願う保護者・地域のためにある。  
そして、それを実現しようと日々取り組む教師のためにある。

どの子ども「伸びたい」「もっと良くなりたい」と欲しています。その願いに応えられる学校の在り方を求めたいと考えています。

今年度の重点項目を「**学びに向かう力の育成**」としています。合言葉は「**自立した学習者**」です。「**自立した学習者**」と聞くと、特別な響きがありますが、決して特別な姿を求めているではありません。「分からないときに、分からないと言える」「友達と一緒に考えを出し合いながら解決する」「自分の学習状況について理解する」「家庭学習に自分から取り組む」、そうした姿を求めたいと思います。

また、今年度、新しい取組が3つあります。

- ① 通知表2回制（3学期制で、学習内容を前期・後期で取り組みます。）
- ② 日課の変更（午前5時間日課）
- ③ 学級費等の振込対応

詳しくは、改めて別プリントでお知らせします。

### 《校長散歩道 No. 1 2》

今日の始業式に、次のような話を子どもたちにしました。

「今年も、西北小の子どもは、『より良い自分づくり』に取り組みます。それは、『自分をつくることができるのは、自分しかいない』からです。先生たちやお家の人は、あなたをより良くなってほしいと願っているし、そのためにいろいろと支えてくれます。それでもやっぱり、自分が取り組まないと、より良くなるはならないのです。『より良い自分づくり』のためのキーワードは、『大すき』です。『大すき』をつくっていくことが、『より良い自分づくり』につながります。ただ、『～だから、大すき』だけではダメです。『～だけど、大すき』をつくります。例えば、『算数は苦手だけど、みんなと一緒に学習するのが大すき。』、『人前で話をするのは緊張するけど、発表をしてみんなと考えるのが大すき。』といった感じです。『～だから、大すき』は、もうすでにもっているでしょう。『～だけど、大すき』は、そこに自分から『良さ』を見つけようとしないと、『大すき』にはなりません。この、『自分から良さを見つける』、ということがとても大切なのです。」

「～だから、大すき」よりも、「～だけど、大すき」の方が、その意味は深く、そこに主体性を感じます。どの子どもにも、そんな一年を体験させたいと強く願います。